

2019 年度 第 2 回愛知県総合教育会議 議事録

日時：2020 年 3 月 24 日（火） 11:00～12:10

場所：愛知県本庁舎 3 階 特別会議室

【県民文化局長】

時間となりましたので、ただいまから 2019 年度第 2 回愛知県総合教育会議を始めさせていただきます。大変申し訳ありませんが、知事の到着が 10 分ほど遅れますので、先に始めさせていただきますと思います。

本日、御出席の皆様におかれましては、お手元の名簿と配席図をもって代えさせていただきます。なお、昨年 10 月、教育委員に御就任いただきました塩谷育代様に初めて御出席をいただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、知事到着までお手元の資料につきまして、事務局のほうから説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【教育委員会事務局長】

事務局長の新村でございます。お手元の資料「2020 年度教育行政の主要事業等について」に基づき、主な取組状況を御説明させていただきます。

「愛知の教育に関する大綱」と共有いたします「あいちの人間像を実現する五つの基本的な取組の方向」と、それを踏まえて取り組むべき 28 の取組の柱と施策のうち、主なものをまとめたものがお手元の資料でございます。

まず、資料の 1 ページを御覧ください。取組の方向 1 の「多様な学びを保障する学校・仕組みづくり」についてでございます。

「第 2 期県立高等学校教育推進実施計画」に基づきまして、産業界のニーズの変化を踏まえ、2021 年度に工業高校を「工科高校」へ校名変更するほか、科学技術人材の育成を目的に 2022 年度を目途に瑞陵高校と岡崎北高校に「理数科」を設置するなど、時代の変化や生徒のニーズを踏まえた高校づくりを進めてまいります。

次に、「特別支援教育の充実」について、資料 1 ページの右上にございますが、2020 年 4 月に豊橋特別支援学校潮風教室を設置するとともに、みあい特別支援学校の校舎を増築して供用を開始いたします。

また、2022 年 4 月に西尾市内に新設する、本県で初めてとなります知的障害と肢体不自由の両障害に対応した特別支援学校の開設や、2023 年度開校予定の知多地区への聾学校分校の開設、2024 年度開校予定の岡崎特別支援学校の移転整備に向けた準備に取り組むとともに、名古屋市立守山養護学校の整備を支援いたします。

次に、資料 1 ページの右下の「情報教育の充実」につきまして、担当教員を対象とした

講演会等を実施し、小学校のプログラミング教育を推進いたします。

1枚おめくりいただきまして、資料2ページの左上を御覧ください。「日本語指導が必要な子どもたちへの支援の充実」についてでございます。公立小中学校の日本語教育適応学級担当教員を増員し、語学相談員や県立学校の支援員を継続配置するとともに、市町村の日本語初期指導教室の運営や、ICTを活用した教育・支援を新たに補助してまいります。

また、県民文化局の事業でございますが、下線が引いてあるゴシック体のところですが、「あいち地域日本語教育推進センター」を新設するとともに、総括コーディネーターを配置し、地域日本語教育を総合的・体系的に推進してまいります。

次に、取組の方向2についてですが、資料2ページの右上を御覧ください。「いじめ・不登校等への対応の充実」につきましては、県立高校へのスクールソーシャルワーカー配置を1名拡大するなど、児童生徒の心のサポート体制の充実を図ってまいります。

次に、右下にあります取組の方向3の「学校体育の充実」につきましては、全国中学校体育大会が東海ブロックで行われ、県内では水泳競技を始め4競技が開催されます。

1枚おめくりいただきまして、資料3ページを御覧ください。「取組の方向4についてでございます。社会人・職業人としての自立したキャリア教育の推進」につきましては、県立高校の職業学科を対象に、地域企業と連携した先端的・実践的な講座等を実施し、地域産業の担い手を育成いたします。

次に、取組の方向5でございますが、資料3ページの右ほどを御覧ください。「開かれた学校づくりと多忙化解消への支援」につきましては、優秀な人材を確保するため、教職の魅力を発信してまいります。

次に、「学校施設・設備の充実」についてでございます。2018年度に策定しました「県立学校施設長寿命化計画」に基づき、工事を計画的に実施してまいります。

また、県立学校のトイレ環境改善につきましては、計画の一部を前倒して実施するほか、昼間定時制及び通信制高校につきましてはリース契約により空調設備の整備を進めてまいります。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

【県民文化局長】

説明が終わりましたが、知事がまもなく到着ということで、今しばらくお待ちください。

説明は終了しております。それでは、大村知事より御挨拶を申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

【知事】

皆様こんにちは。愛知県知事の大村です。

本日は、大変お忙しい中にも関わりませぬ、2019年度第2回の愛知県総合教育会議に御

出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

この総合教育会議は、知事と教育委員会の皆さんとで、教育政策の方向性を共有し、緊密に連携しながら、愛知の教育の更なる充実を図るため、2015年4月に設置したもので、これまで、「愛知の教育に関する大綱」の策定に関する協議や、大綱を踏まえた様々な施策について、御議論をいただいていたところでございます。

今年度第2回目となる本日の会議では、大綱と合わせて策定いたしました「あいちの教育ビジョン2020」の実現に向けて、その取組状況について、皆様と共通の認識を持ちたいと考えております。

県立高校につきましては、時代の変化や生徒の多様なニーズを踏まえまして、2021年度から、ですから、1年後ですね。県立工業高校を全部「工科高校」への校名変更するというところでございます。要は、インダストリーとサイエンスということで。特に、県の工業高校の女子学生比率が8%ということでございますので、少しでも女子学生が増えてもらえないかなど。間口を広げるという意味で、時代に合わせてモデルチェンジをするということかなと思っております。そして、2023年度の城北つばさ高校の総合学科への改編に向けた準備など、魅力ある学校づくりを進めていきたいと思っております。

また、県立特別支援学校につきましては、教室不足の解消や長時間通学の緩和を図るため、私、これで知事を務めて9年目になりますけど、4つの新設校、4つの分教室という8つ作ってきました。この4月にも田原市の福江高校の空き教室を使って、「潮風教室」をこの4月から開設をいたしました。西尾市に知的障害と肢体不自由にセット対応する特別支援学校の2022年度開校を目指し、建設工事に着手いたしております。これで、10個目と。

また、豊学校が知多半島にないもんですから、東浦高校の敷地、グラウンド内に校舎を建てて、作るということも。これが、2023年度。さらに、豊田市に知的障害の学校を新設するというところでございまして、しっかりやっていきたいと思います。

さらに、岡崎に肢体不自由の子どもたちの特別支援学校、そこがちょっと建物が老朽化して、土砂災害危険区域にかかっているわけですね。なので、県の農業大学校の敷地へ移転新築するというところで、準備を進めてまいります。

日本語教育が必要な外国人児童生徒への学習支援として、県立学校への小型通訳機の配備の拡充、日本語を教える日本語教員の配置。また、就労アドバイザーを配置してまいります。

県立学校の施設についても、長寿命化改修ということではありますが、その中でもトイレ。トイレの改修の要望が非常に強かったんで、これだけ取り出して、2019年度から5か年計画で、県立高校の洋式化と乾式化を。2,100箇所あってですね、直すだけで、75億円かかるんですけども。一気にやっていきたいと思います。家が和式のところはもうほとんどないので。

「あいちの教育」の更なる充実に向け、教育委員会の皆様方には、忌憚のない御意見をいただきますようお願いいたしまして、私からのあいさつとさせていただきます。

【県民文化局長】

それでは、ここからの進行は、今回の招集者であります大村知事をお願いいたします。なお、資料の説明は既に終了しています。

【知事】

それでは、資料の説明、報告を踏まえてですね、各委員の皆様から御意見をいただければと思っております。

順々にのほうが良いのかな。どなたからでも結構ですが、広沢委員お願いします。

【広沢委員】

よろしく願いいたします。私からは、新型コロナウイルス、どれだけこの言葉を聞いたかわからないくらいですが、新型コロナウイルス感染症への対応につきましてお話ししたいと思います。この対応につきまして、教育委員会では、小・中・高・特別支援学校における一斉臨時休業でありますとか、希望者を対象とした自主登校教室の設置、さらには学校給食関連事業者への総合的な支援に関する文部科学省への緊急要望などに取り組んでいるところです。

こうした取組の実施にあたりまして、知事のリーダーシップによって、大変迅速に対応できたこと、私からも御礼申し上げたいと思っております。ありがとうございました。

そして、今朝、報道などを見ておりますと、文部科学省からの学校再開という方向での通知が今日、どうも出てくると、そういう話になっているようでございます。まだ文書は届いていないというふうに、今、出てくるときに聞いてきたわけですが、一部出ているものを見ておりますと、学校には今までとは違うことで、少し負担がかかることもあるわけですがけれども、この新型コロナウイルスという大変な事態、危機と言いますか、これ乗り越えるために各学校にもこういったチェックということをきちんと徹底していただいて、大変なことになるなあと、ヨーロッパなどの様子を聞いておりますと、そんなことを思いながら、この記事を読ませていただいたところでございます。

課題もまだまだあります。突然学校活動が切れてしまったので、学習、そのあたりをどうするかとか、いろんなことがありますけど、まだまだコロナが終息しての再開というわけでもありませんので、突然休校ということも念頭に入れながら、社会全体の状況を見渡して進めていく、そんなことになるんだろうなあとと思います。

こうした状況を受けて、私がお話したいのは、現場のこと、思いというのでしょうか、そんなようなことや、緊急事態に対する対応について、お話させていただこうと思って

おります。

ちょうど今回の件は3月で、年度末、まとめ、進級、卒業という時期に当たっております。学校というところ、子どもたちは最初に担任の先生と、今年はこれだけの子どもたちということでスタートして、ずっと子どもたちを見守りながら、いろんな指導をして成長を見ていくわけですが、特にこの最後のところは、例えば、1年生の、小さな子たちにとっても、2年に進級するっていうのは、一つ下の子たちが入ってくる。そうすると、そのあたりをきちっと指導することで、それまで自分のことばかりだった小さな子たちに対して、下の子たちも面倒見てねというような、他の人のことを意識させるような指導も、この時期にする、そういう段階であったように思います。そんなことをやってきたわけがあります。

それから、卒業であるとか進学、そんなことに関連で、周りに対する感謝の気持ちを持たせるような指導もこの時期にしていく、それが学校の現実であったわけで、その辺りができなかったというのは、ちょっと残念ではあったわけですね。もちろんやむを得なかったということでもあります。

さらに、職員にとっては、この最後のまとめの時期ができなかったということで、中には3月末で異動する職員、退職というような職員もいたわけで、最後のところで子どもたちとの別れということを考えてずっとやってきたものが、うまくできなかったとしたら、これは残念だなということも思うわけです。子どもたちにとっては、こういうことも含めて、朝起きてから、もう夜まで、寝ている間もかもしれませんが、全てのことが子どもたちの成長の糧になる。特に学校においては、同じ年齢、少し違う年齢の子どもたちも含めて、集団の中で生活をする中で、ちょっと大げさにまとめて言ってしまうと、生き方を学ぶという、そういった場で学校はあると思います。

これは今、そういうことだからどうだということもありませんが、現場のことを考えますと、いろいろとこ複雑な思いがあるということでもあります。

その状況を踏まえてということで、もう一つ、今回のことで考えていることは、緊急事態への対応についてであります。

12月ごろ、まさか今、こんなことを話しているような事態になるとは、これはもう誰も思っていなかっただろうと思います。

しかし、世界のあちこちが大変な事態になっている中で、現在、日本、愛知は何とか生活ができているというのは、それぞれの場所、それぞれの人の、適切な対応の積み重ねの結果であると思うわけですが、こういった対応ができるのも、すべてこれは人であると。黙ってじっと待っていたら、どこかから対応が降ってくるわけではなく、相談をし、こういう対応で、と考えるようやっていくわけでもあります。

学校の臨時休業対応についても、当初、大変なことになったなと思ったんですけども、もちろんいろいろあると思いますけれども、大きく言えば、うまく進んでいる。この辺り

は学校も人の対応がきちんとできていた、そういうことだろうなと思っているわけです。

緊急事態っていうのは、もちろんコロナ、これからもまだまだ緊急事態があります。こればかりではないわけで、愛知はずっと、学校現場で自身の対応を考えながら、いろんなことをやってきておりました。

思いもよらないということで、そういうものは様々あるわけでありませけれども、これからのいろいろな緊急事態についても、今回のように適切に対応していくためには、やはり有能な人材が実際そこに配置されていなければならない。そんなことを思いました。

学校というところは、未来を担う子どもたちに関することをやっておりますので、特にそういう有能な人材を確保する。不可欠な条件だと考えております。まだまだこの先わかりませんが、学校が落ち着いて、どんな活動内容にするのだろうかということも、行政、そして私ども教育委員会の重要な役割であろうと今回のことで考えた次第です。

今後、これからどうなるか、わかりませんが、教育委員会としては、ここまでの対応と同じように、知事と一体となって、子どもたちが安心して、そして安全に、成長していくことを願いながら、様々な取り組みを進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

この後、同じような内容、佐々委員からも人材の確保について、発言していただくつもりでおります。以上でございます。ありがとうございました。

【佐々委員】

それでは、私の方からですね、教員の多忙化について少しお話をさせていただければと思います。

私ども教育委員も、小学校、中学校、高校の先生方との各種会合におきまして、教育現場における多忙化の大変厳しい現状、悲痛な叫びを毎回のように聞いております。

その中で、大変危惧しておりますのは、先生方のやることはどんどん増えていく。それはいいことではあるのかもしれませんが、在校時間 80 時間を超過する割合が大変高くなっており、先生方が大変疲弊しているということ、また、子どもたちと向き合う時間が減少して、その使い方とか、教育への意欲が減退することを大変危惧しております。

また、そうした現状が改善されないことによって、教員になりたいと思っても、教育の多忙なイメージやその現状を、教育実習などで目の当たりにすることによって、教員になることを諦める若者が多くなっていることも事実であると思います。

私ども教育委員といたしましても、この現状をいち早く改善して、先生方の時間的、精神的負担を緩和して、生き生きと子どもたちに向き合うことに時間を費やせるようにしていくことが必要だと考えますが、そのあたりの現状をですね、大村知事はどのように考えられて、今後どのように多忙化解消を図っていかれるのか、お聞かせいただければと思います。

【知事】

はい。ありがとうございます。教育人材の確保と教員の多忙化解消ということで、それらは関連しているテーマだと思いますので、御意見をいただきました。やはり、教員人材の確保については、教員の魅力やそうした職場を学生の皆さんにしっかりとPRして、教員採用試験を受けていただく方を増やしていきたいというふうに思っています。

そして、どうも世の中的には教員という仕事がブラックだというイメージが大分広がっているものですから。そうしたことを解消するためにも、多忙化解消には着実に取り組んでいかなければならないということだと思います。

3年前だったかな。多忙化解消プランが作られたのは。ですから、先駆けて多忙化解消のプランを愛知県教育委員会が作って、着実にやっておりますので。これは、一朝一夕である日突然全部変えちゃうというわけにはいきませんので。着実にですね、やっていきたいというふうに思っております。

そういうことで、県立高校へのスクールソーシャルワーカーの配置の拡充、小中学校へのスクールソーシャルワーカーの配置を市町村に対して応援をする。それから、中学高校の部活動の指導員。部活動は土日もなく、超過勤務も当たり前というのは、やはり直していかないといけないということで。そうした部活動の指導員や小中学校のスクールサポートスタッフ、それから小中学校でのいろんな問題に対するスクールロイヤーといった外部の専門家の方々のサポートをですね、当然お金がかかることではありますが、しっかりとやっていきたいというふうに思います。

そして、部活に関しては、部活をやりたいとって教員になった方もいて。特に高校の体育教員の先生はそういう方が多いのではないかと。圧倒的に多いのは野球なんですよ。やっぱり野球部の監督、コーチをやりたいという方がいるのも事実ですから、そこはどういうふうに割り切っていくことかなと思いますので、どこかで区切りを付けて割り切っていくということをしないといけないですね。

働き方改革は絶対にやらなければいけないことなので、どんな企業さんも全てのところが取り組んでいますよね。働き方改革をやって、ワークライフバランスをとって、生産性を上げていくということになるので。その中でも問題が顕在化しているのが教員の世界だと思いますが、多忙化の解消には、着実に着実に取り組んで、制度・仕組みを変えていかなきゃいけないものは変えていくということだと思いますので、よろしく願います。

【佐々委員】

知事、ありがとうございます。

このような現状を解決するにあたって、知事がおっしゃられたように、問題は部活動であるという話になったり、先生の数がもう絶対的に足りないんじゃないかとか、そういう

話になります。そうすると、どうしても、教育予算を大幅に増やさないとできないんじゃないかというような話にどうしてもなってしまうわけですが、おっしゃられたように、部活動をやりたい先生もみえるし、部活動がどうしても苦になっている先生もいるということで、多種多様だと思います。

そうした先生方の、多忙化解消に向けた取組についての提言を先日読ませていただいたんですけども、先生方の、単なる労働問題とは全然とらえておらず、教育の発展を心から目指しておられるということがしっかりと提言されている上での提言でありました。

潤沢な予算があるに越したことはないでしょうけれども、なかなか、いろいろな方面に多額な予算が必要である、また教育予算だけを大幅に増やすことができない、容易でないということは、重々理解しております。

その中で、私が特に感じますのは、教育予算の総額における多忙化解消に向けた予算配分がいかにも少ないんじゃないか。また、やめられることはやめる、どんどんやるが増えていく中で、先生方も、もう少しやめられることはやめていく。そんな業務削減がもう少し進んだら、それを両輪でやっていけば、そういったことも解消できるのではないかと、いうことを日々感じております。

そうした中で、多忙化解消に向けての愛知県の本気度を見せることが、先生方のモチベーションを上げて、それは教育の質の向上につながって、ひいては教員を目指す若者を増やすことに、必ずつながっていくのではないかと考えております。

そこで、是非大村知事をお願いしたいことは、その必要性を重々御理解されていると思いますが、予算配分の見直し、予算措置などの面での強力なバックアップをいただければと思うわけですが、知事、いかがでしょうか。

【知事】

まさにそういうことだと思いますので、着実に具体的な方策を作って、着実に進めていきたいと思っております。当然、予算のことも必要になってくると思っておりますので、それも着実にやっていきたいと思っております。

【佐々委員】

ありがとうございます。こういった多忙化解消に向けた取組を、教育委員会が大胆に実行できるように、くどいようですが、予算措置などの面での強力なバックアップを心よりお願いしたいと思います。

今日はこのような貴重な機会をいただきまして、本当にありがとうございました。

【知事】

ありがとうございました。

【塩谷委員】

はい。様々な分野で御尽力いただき、ありがとうございます。

特に教育についても、今いろいろと知事から考えをお聞きいたしまして、ほっとしておりますが、部活動に関して、知事の方からもいろいろと考えていただいているということで、まず非常に懸念しているのが、全国の中でも、愛知県の子どもたちの体力、運動能力が非常に低いんです。

本当にこれはどうしてこんなに低いのかなと思うほど低いですが、やはりそれを解決していくための方法の一つとして、部活動もあると思うんですね。大村知事は幼少の頃、何か運動は、部活動はされていたんでしょうか。

【知事】

僕は野球部でした。

【塩谷委員】

野球部ですか。高校時代は、部活動はされていたんですか。

【知事】

特にやってないです。

【塩谷委員】

ですから、あんなに学年で一番という成績をずっと3年間続けられたってことなんですね。

でも、やはり今ここで、こうやって大村知事がエネルギーに活動されているのも、体力がなければ絶対にできないことであると思うんです。

今、この時代、コロナという、もう本当に、非常に大きな敵にみんな向かっているわけですが、そこにも体力というもの、健康というものが大事だと思います。

そして、部活動をすることによって、人間力を評価できる、そしてコミュニケーション能力を社会に出ても、その部活動の時間で培ったものが大きな力になっていると思うんです。

今、教師の労働時間の見直しということにも関わってくると思うんですけれども、その部活動のシステムを大幅に変えていく時期だと思うんです。私が思うのは、小学校の時は、私、小さな小学校でありまして、季節ごとに部活動を変えていきました。ですから、1年間の中で、6種類ぐらいのスポーツを経験することができたんです。

今、世の中では、小学校からの試合形式、試合を目標としてやっているスポーツが、もちろん文化部も多いんですけれども、それに向かってあまりにも行き過ぎていないか。

小学校の時は、基礎体力をつけて多種目のスポーツを経験して、自分が何に向いているかを模索しながら楽しむことが第一な目的であると思うんですが、その辺りがちょっと曲がった方向に行っているのではないかと、そして中学になって、自分のやりたいものを一つ見つけて、そして高校になったらさらにスキルアップする。その中において、やはり最初にスポーツを始めるにあたって、正しい方法で、けがのないように、楽しむ方法を教えてもらうための指導が必要です。

そして、中学になって、高校になって、生徒側のスキルが上がれば、それ以上に指導力も試されてくると思うんですね。

名古屋市も、2021年度、3月を目途に、民間への指導者をお願いするような形に向かっていると思うんですけども、ぜひとも、公立高校、特に貧困家庭の子どもたちは、クラブチーム、お金をかけてスポーツを学ぶことができないわけなので、やはりそこは教育、義務教育、そして、そういう子どもたち、みんなに平等にそういう機会が与えられるためにも、部活動を存続させていくことが大事だと思います。

それにはやはり、その人間力を高める、忍耐、そういうものを培うための場所として、部活動のあり方を強化するためにも御尽力いただけたらなと思います。

【知事】

塩谷委員はゴルフはいつから。子どもの頃から。

【塩谷委員】

ゴルフは、正式には高校3年生ですね。

でも、小学校4年生の時に、作文でプロゴルファーになると書きました。

【知事】

高校3年生から。

【塩谷委員】

はい。でもそのために陸上部に入りました。基礎体力をつけるために、ゴルフのために入りました。中学校高校ですね。

【知事】

子どもの時とか、中学校の時は。

【塩谷委員】

陸上部に入りました。

【知事】

陸上部。種目は何をやっておられたんですか。

【塩谷委員】

走り幅跳びと短距離です。何か関係ありますか。

【知事】

小さい頃からずっとゴルフをやってこられたのかなと思ひましてね。そういうことではないんですね。バランス良く。

【塩谷委員】

そうですね。

【知事】

今言われたのはおっしゃるとおりなので。アメリカはシーズンごとにいろんな種目やっていて一番適正のものを見つけていくので。我々も2019年度からですね、子どもたちの、小学生対象のキッズアスリート養成のプログラムを始めましてね。これからのオリンピックには間に合いませんけど、2026年のアジア大会とか、その先ということで。自分たちで応募してもらって、150人くらいの小学生、中学生のやる気のある子に応募してもらって、いろんな種目をやってもらって、一番向いている種目をあてがって、専門の指導者をつけてやっていくということでありましたので。

これは、たぶん効果が出てくると思うんですね。普通、子どもたち、男の子がするのは、野球とかサッカーとかバスケとかバレーとか、そういう種目には出会えますけど、そうじゃない種目にはなかなか出会えないので。そういうもので適性を見て、要請をしていこうということをやっています。

また、部活動は大変大事な活動だと思いますので。やはり、学校の教員の皆様にもさっき申し上げたとおり、「やりたい。」とあって、情熱をもってやっておられる方がいるのは事実なんですけど、どこかで割り切れないと多忙解消にならないものですから。どこかで割り切って、外部の専門家の皆さんに指導していただくという。地域のクラブとかですかね。高校野球目指すような子は、中学校とかから硬式野球のクラブチームに入っている。そういうのがどんどん定着している。そういう意味で、部活の指導と学校教育とどう合わせていくかが大事かということなんです。ですから、それらの連携をしっかりと取りながら、進めていきたいなというふうに思います。

それと、先程の塩谷委員の話でもありましたけど、愛知県の小学生の小学校5年生、見事に男の子が47位、女の子が46位か。だいたい大都市圏域が40番代で、これは、平均で

取るとそうになってしまうんですけど。東京だけちょっと。あとは、神奈川、埼玉、愛知、大阪はペケなんですけど。これはですね、大都市圏域はそういう傾向はあるのは事実なんですけど、それで良いというわけではないので。要は、運動する子としない子が分かれているんでしょうね。

ですから、運動する子はどんどんやってもらえれば良いと思いますけど、あまりしない子ども、子ども時代に体力付けないとやっぱりいけないので。やっぱり健康が一番の元ですから。そういう意味で各学校、教育委員会、市町村教育委員会にいろいろな工夫をしてもらえるように県教育委員会からも話をしていますので。楽しんで運動するようなプログラムをもっと広げていければ良いかなというふうに思います。これもまたしっかり継続してやっていければ良いと思っています。ありがとうございました。

【塩谷委員】

ありがとうございました。

【知事】

はい。それでは次、伊藤委員お願いします。

【伊藤委員】

私のほうからは、日本語教育が必要な子どもたちや、外国人の子どもたちへの教育ということで、これに関連しまして、少しお話をさせていただきます。

先ほど知事さんから、それから事務局長さんから、来年度の政策や、これまでの政策、それから、これからも充実させていきますという御説明がありました。日本語教育関連の予算を見ますと 36 億円という、大きな規模の施策を実行させていただいているということです。

3月に国の外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議の報告が公表され、いろいろな方針も出ております。それによると、就学状況の把握・就学の促進は「速やかに実施すべき施策」とありますが、愛知県は、現場の皆さんや市町村教育委員会の努力もあって、就学が必要な子どもさんの把握や、日本語指導等への対応を、国に先駆けてやってこられています。

住民基本台帳の外国人の数は東京都に次いで愛知県が全国2位ということで、実際の必要に応じ、全国に先駆けて、御対応をさせていただいているところです。これらの施策の法的根拠となるのが子どもの権利条約と、国際人権規約ということです。今回の有識者会議でも「すべての外国人の子どもが就学することを目標に」という文言が出ているんですけども、今、愛知県の就学率が87%、名古屋市を除くと89.7%ということで、2019年9月のデータを出してくださっていますが、ここは果てしなく100%に近づけていくという

のが、国の有識者会議の方針です。やっぱり大きな方向性として示されたということですので、今後もそういうことで進めていくということだと思います。

そこで、施策の根拠なんですけれども、そういった法律の裏付けということよりは、愛知県の人口が自然減少に入っている点からも重要と考えられます。

これは、日本全体が人口減少局面に入っておりまして、人口というのは経済の規模ですから、減少していくということは、マーケットも小さくなる可能性があるという事です。けれども、そこを持ちこたえて底上げして、愛知県の今の人口全体をサポートしてくれているのが外国籍の方たちで、27万人という規模があります。

もちろん、小学校で日本語がおぼつかない、目の前にいる子どもさんを助けようというのは、教育機関、教育行政の仕事としては当然のことなんですけれども、それと同時に、これは、将来にわたって良い働き手になって、そしてよい生活者というんでしょうか、消費支出を支えていく人材を育成するという、そういう長期的な目的を考えましても、非常に重要なことです。

先生方やそれからその周りにはいる県民の皆さんにも、なぜこんなに（外国人児童生徒等のための）予算を作って、そして実行していくことが必要なのか、これからの愛知県にとって大変大切なことなんだということを丁寧に説明するのが、とても重要と感じております。

けれども、ひとつ気がかりなことがあります。今、コロナウイルス感染症の影響が広がっています。このような病気が流行ると、世の中が分断するんです。分断すると、私たちは目で見える線引きを、簡単に心の中で差別や対立に替えてしまいがちです。このような差別や対立を、歴史上でも経験してきました。

これから私たちが外国人、外国籍の子どもさんへの日本語指導の場面で心しなければいけないのは、そういったことを絶対にしてはいけないと、差別を生んではいけない、対立を生んではいけないということを言葉に出して共有することです。今ここで、とても大事な時期にいるのではないかと感じます。

例えば、アラブの春でヨーロッパに難民が入ってきたときに、ドイツは、始めは受け入れる方向だったんですけれども、ある時点で、「これ以上は無理だ」ということになってしまいました。

あるいは、アメリカでは、メキシコとの国境に本当に壁を作ってしまう。そんなことを、実は私たちは、大人の世界と言いますか、国際社会で、子どもたちに見せてしまっているんですね。

それを起こさせないためにはどうしたら良いかという、実は、今の日本語指導が必要な外国人の子どもたちも、日本人の子どもたちも、みんなちゃんと仕事に就けて、良い暮らしができるということを作っていかなければいけません。

今のものづくりというのは変わりつつあって、そして消費もモノからコトという、経済

が変化している中で、子どもたちがこれから働き手となる時代は、どこで何をやってどんな力をつけて、そしてどう働くのかも、どんどん変化してきています。

そういった変化に応じて、この先、目的を持って教育をしていくことは、良い仕事にみんな就いていくことに繋がり、この先に対立を生まない社会に長期的には繋がっていくと思っております。そんなことを考えております。御意見をお聞きしたいです。

【知事】

はい。ありがとうございます。本当におっしゃるとおりで、新型ウイルスなどが蔓延するとですね、やっぱり分断が起きる。とにかく、アメリカ、ヨーロッパでは国境を封鎖して往来禁止ということなので、余計そうなりますけども。そうならないように、我々はしっかりとやっていかななくてはいけないと思いますので。一例を申し上げますと、2月の終わりに横浜のクルーズ船から下船をすとなった時に、症状が出て発症した方はそのまま病院に行って。関東だけでは見切れなくなったので、発症した方は、まだ2月は愛知県出ていなかったの、発症した方を9人受け入れました。さらにですね、検査の結果、ウイルス検査は陽性だけど、症状は出ていないという方を200人受け入れてくれと。受ける場所が関東にないと。それはそうですよ、200人なんていっぱい。ばらばらと受け入れたら陽性ですので広がってっちゃうので、一箇所です。東京、神奈川の首都圏の病院全部いっぱいなので。そうしたら、愛知県に4月1日開院予定の藤田医科大の岡崎医療センターのベッド400床の救急病院が、新築で空いているということだったので、そこで受けてくれということだったので受けました。結果128名を受け入れました。これは、地元の岡崎市には大変な負荷をかけてですね、道路を挟んで東となりが小学校だったので、周りもまだ区画整理で家がありません、地元説明会をやるのにも苦労しましたが。藤田医科大の医師と看護師が不眠不休で頑張っているところにですね、心ない電話が来るんです。「外国人税金使うな。追い返せ。」「中国人、韓国人は追い返せ。」という電話ですよ。藤田の理事長さんも心が折れるんですね。だから、「激励に来てください。」と。3月1日に行って激励してきましたけど、こういう時にそういうことを言うかと。確かに来られた方は8割が外国人ですよ、国際クルーズ船なので。そういうことを言うかと思っ、情けない限りだなと思いましたが、そういうものには負けられないと思っております。

そんなこともあり、とにかくこれは、皆でしっかり頑張っていかなきゃいけないことだと思いますが、合わせて日本語教育は課題だと思います。愛知県に外国人の方が増えたのは、平成元年に在留資格の見直しをやって、いわゆる日系人は家族でもOKですよ、永住できますよと変えて、翌年の1990年から日本に来られた日系ブラジルの方が南米、中南米から家族帯同で来られたということでありました。最初は、相当、地域の摩擦もあり日本語教育ができなかった。今から20年前、私の子どもが小学校の時は、小学校高学年

から減ってきて、中学校の時は誰も行かないという時代でありました。対応できていなかったんですね。今は、小学校中学校、日本語教員さんを愛知県と名古屋市で637人も配置してですね、圧倒的な日本一でありまして。皆さんがチームを組んで日本語の補習をやってくれているということなので、小学校出て中学校に、中学校出た子も高校、通信とか定時制とかありますが、上の学校に8割以上進学することが可能という。

ここに来て、日系ブラジル人の方や海外から仕事を求めてやってくる方が増えておられます。そうすると、「皆子どもの頃から日本語しゃべっているから良いだろう。」と聞いたんですけど、「最近中学校くらいの勉強してない子がいきなりふっと来て、何も分からないということが増えてきている。」と。それは確かにすごく難しいことですよね。保育園の頃から日本語しゃべっていればペラペラなので、その子に書くことを覚えさせるのはあれだけど、しゃべれない子に一からやるというのはすごく大変なことだと思います。

そういう新たな課題がいろいろ出てきているので、私どもが今年2020年度に、「あいち地域日本語教育推進センター」を県民文化局に作ってそこでやっていくということにしております。そういうことなどきめ細かくやっていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

それでは、大須賀委員。

【大須賀委員】

最後になりましたけど、時間も迫っておりますので、言いたいことの多分10分の1も言えないかもしれないので早口になるかもしれませんが、私も3年目になりまして、知事の生の声を聞けるっていう、総合教育会議はとても大事な会議だなと改めて感じておりますので、年々知事の発言の時間が長くなって有難いなと思うんですけど、僕らもお聞きするだけでは教育委員の意味がありませんので、いろいろ勉強してきました。かつては幼児とか小学校低学年の教育が重要なんだということで勉強させてもらってお話したんですけど、今日は県立高校の充実について勉強してきました。

自分の昔、ちょうど今ほどですね、県立高校の合格発表があつて、志望校に入れてうれしかった記憶が遠い遠い昔のようですけど、あります。

当時も思っていたんですけど、大学に行った時に特に感じたんですけど、愛知県はある意味県立高校のレベルが非常に高いというか、関東・関西は、私学と言いますか、中高一貫校みたいのがいっぱいあつて、そこから進学してくる方が非常に多いのに比べて、愛知県は三河も含めて、自分で言うのもなんですけど、進学も含めていい高校がたくさんあるというイメージをずっと僕は持ち続けてますし、今でもそうであると信じているんですけど、いろいろデータとか情報を聞きますと、残念な課題もたくさんあるみたいで、資料を事務方にいっぱいもらって見ると、県立高校の入試制度についても非常に課題が多い。推薦選抜の志願者の割合が低下して、私学へどんどん、志望者が流出していると、欠員も

増加していると。これが今、入試における現状だそうです。

それから、中学校や高校の現場の先生からも、様々な入試制度についての御意見をいただいておりますが、ここに書いてありますが、それは省きます。先ほど佐々委員からもあったんですけど、私は今、高校の同窓会の役員、副会長をさせていただいております、高校にたびたび行く用事ができまして、知事がせっかくお話いただいたトイレがあまりにひどくて、何ということだと、俺たちが行っていた頃と一緒にだと、もう何世紀も前のトイレがあるんだという状況を知りましてですね、もうこうなったら、うちの高校はおかげさまでイギリスやドイツから留学生が毎年来ますので、この子たちにこんなトイレを見せられないなということで、県がお金なかったら同窓会でやろうと言ったところで、県からお金が来まして、同窓会で出さなくて済んだんですけど、僕が想像していたものを、今の県立高校が中学生に憧れと夢を与える場所になってるんだろうかと現実を見ながら考えると、やっぱりエアコン問題も、教育委員になって初めて知ったんですけど、ほとんどPTAがお金出してるんですよ。この温暖化現象の中で、エアコンなしで勉強することは大変なことだと思いますし、インフラの整備についても、まだまだ今の県立高校が、ああいう方向で、ああいう設備のところに行きたいと思わせるような環境が整ってるとはちょっと言いがたい。

もちろん佐々委員もおっしゃっていたとおり、長寿命化計画とか、いろいろ様々な取組で、高校の設備を良くしようということをやっておられることはここ十分承知した上でお願いをしてるんですけど、やはり私学との競争もありますし、将来あんな高校に行ってみたい、こんな高校に行ってみたいというような県立高校であり続けたいというのも、このままではダメだなという感じを、実は持っております。

もちろん、最終的にはお金がかかって、インフラ整備をしなければならない、橋を作らなきゃいけない、道路も直さなきゃいけない中で、なぜ教育だけにそんなにお金があるんだって、絶対批判はあるわけですけど、僕はやっぱり優先順位は教育だと。もうそれを、ここで、今までだったら誰が言うんだと思っていたので言いますが、最終的には委員の間でいろいろ話をするんですけど、最後はやっぱりお金がないと、何ともならないという話にいつもなります。だから、民間委員として、教育者でも何でもありませんけど、民間もお金がないと何ともならないです。ですから、とにかく予算については繰り返しになりますが、お願いをしていきたい。

それから、予算というのは、これも紹介したかったんですけど、1か月前の中日新聞に書いてある、哲学者の方の「教師に希望を届けたい」という記事を読んだんですけど、やはり先生方の働き方改革も必須だし、それをやらないと何ともならない状況に陥っていると、先生が疲弊していると。

そのところは、この方はもう何百人かの現場の先生と直接お話をし、疲弊しきった先生たちの姿っていうのを見て、何とかしなきゃいけないと思っていると。先生たちが希

望を持ってないと。希望を持ってない先生のところに入った子どもたちが希望を持てるわけがない。

だから、こういう学校に入りたいという希望を持った子どもたちがせっかく入っても、先生たちがその学校に希望を持ってなかったらダメですから、是非とも、先生たちが、これから単に働き方改革で、タイムカードで先生方の勤務時間だけを決めて、何時間減ったから改革ができたという問題ではないと。

僕は、直接視察などで見させてもらっていますが、ほとんどの先生方、本当に一生懸命、意欲満々でやられて、頑張っておられる先生がいっぱいいるんですけど、そこに教育実習生が見に来ると、俺はあんなに頑張れないと。あんな、学校なんかやめたと。志望をやめちゃうんですよ。だから先生の志望も減っていると。

先生の志望が減って県立高校を受験する生徒の希望がなくなったら、将来の愛知県の県立高校はどうなるか、僕は心配ですね。

だから、是非とも、解決策はないって自分の中でも堂々巡りしていたんですけど、コロナウイルスで 30 兆円出すんだと、ない金でも出しちゃうと知ることができたので、緊急事態宣言だと思えば、できないことはないんじゃないかと思います。

今、愛知の教育は緊急事態だというふうにまず知事にお考えいただければ、是非とも、教育の予算が本当に足りないと確信しておりますので、お願いしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

【知事】

御意見いただきましてありがとうございます。予算は全体を見ていきますけど、役所の中の仕組みとしてですね、財政担当はですね、大きいところから切ってくるわけですよ。そのほうが切りやすいので。そうすると、建設とか農林とか教育委員会、それから、警察などの大きいところが予算取るの下手なんですよ、はっきり言って。僕は基本的にはですね、自分も予算の要求したり査定もしましたので、こういう無駄なことは辞めろと。最初から大枠示して、全体のバランスを取っているものですから。事前の査定辞めて、全部事前決着に変えちゃったんです。査定辞めちゃったんですよ、説明に来れないのは全部切つてやると。

今回の教育委員会のトイレのことはやらなければならないからやれと言って、最初から指示してやっているの、そういう形で。財源は限られていますから、無駄に使って良いお金って我々にはありませんからね。税金でやっていますから。そういう意味で、重点的にやることはしっかり方針を示してやっていくことかなと思います。

【大須賀委員】

そういうことで、今日はこれだけで満足して帰りたいと思いますが、最後のお願いとし

て、やっぱり教育委員としてはもうちょっと知事に会いたい。是非、もっとこういう機会を作っていただくことをお願いして、僕の質問を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

【教育長】

ありがとうございました。冒頭の広沢委員の発言にもございましたが、新型コロナウイルス感染症につきまして、学校の一斉臨時休業や、希望者を対象とした自主登校教室、これは全ての市町村で開設していただきました。また、学校給食関連事業者関係の緊急要望など、様々な対応策を既に知事と教育委員会が一体となって実施してまいりました。

学校現場の皆様には、本当に様々な、大変なことをしていただいたとっております。

その中でも、先ほど知事からありました、藤田医科大学の前にある岡崎小学校では、小学校6年生の子が中心になって、中に入っておられる方や、医療スタッフの方に励ましのメッセージを送ろうことで、それを出されました。

こういう危機的な状況ですが、やはりそれぞれの学校の現場での人を思いやる心とか、愛知の学校の教育の力というものをまざまざと感じたところでございます。

高校の卒業式でも、在校生が参加できない中で、簡略化した式が終わった後で、体育館の扉を一斉に開けて、体育館の周りを在校生が囲んで、卒業生を送る歌を歌ったとか、厳しい困難な状況の中でも、学校の皆さんが非常に努力して、貴重な思いを残そうとしている姿に、胸が熱くなったところでございます。

先ほどお話があったように、今日はコロナ関係の、学校再開に向けた文部科学省のガイドラインが出てまいります。

既に入学者、始業式については、感染防止策をしっかりと行った上で実施していただくということで、小中学校、県立高校には通知をしております。

再開に向けたガイドラインが示されましたら、そのガイドラインを踏まえて新学期の体制をしっかりと整えて、いつもどおりに学校が再開できるよう、準備を進めてきたいと考えております。

新型コロナ以外でも、外国人児童生徒への対応や働き方改革、県立学校の老朽化、予算対策など、様々な施策にしっかりと着実に取り組んでまいりたいと考えております。

課題もございますが、知事と私ども教育委員会と、認識を一つにして、スピード感を持って乗り越えていきたいと思っております。

あいちの教育、さらに充実させていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【知事】

大変貴重な御意見をいただきありがとうございました。また、今日いただきました御意

見をしっかり受け止めさせていただきたいと思っております。そして今日が終業式か。明日から春休みなので。感染拡大防止対策を十分やった上で、入学式は、小中高十分な対策を構じた上で、準備してくださいという通知を出してありますので。基本的には文科省の通知を見て、4月からは、小中高開校していくということで、しっかりとやっていきたいと思っております。状況によっては順次変化していきますので、それには対応していきたいと思っております。今のところ愛知県内で子どもさんで発症したのは、一宮市でお母さんがフィリピンの方で、里帰りをして帰ってきた、お父さん、お母さん、小学校の女の子のひとりだけということで。大学生より下の世代は誰ひとり罹っていません。ポイントは名古屋市の二つのクラスターで、今は何とか追えている状態ですので、しっかり対応していきたいというふうに思っております。

このように非常に残念なことが続いておりますが、オリンピックの聖火リレーもなしと
いうか、火をランタンに入れて車で運ぶという。止めれば良いと思っ
ているんですけど。この前、アジア大会の予算とエンブレムの発表を
してきましたが、何としても東京オリンピック・パラリンピックを我々も
全力で支えましょうということで。

今日はお忙しい中お時間をいただきありがとうございました。